

研究者リーダーシップ・プログラム

「第6回 プログラムを振り返って(プログラム総括)」

第6回「プログラムを振り返って(プログラム総括)」に参加し、本プログラムで得た学びを整理した。全体を通して印象的だったのは、一般に想起される「リーダーシップ養成」(他者を動かし組織を牽引する技法)というより、まず自分自身の状態を整え、意思決定の質と再現性を高める“セルフマネージメント”に重心が置かれていた点である。時間や優先順位の設計、価値観の言語化、ストレスや感情の扱い方など、日々の業務を安定して遂行するための土台づくりが繰り返し扱われ、結果として周囲への影響力を高めるための前提条件を学ぶ機会になったと感じる。

総括回の後半では、先生方が日々の業務で感じている困り事や悩みを率直に共有いただき、それに対して参加者が解決の方向性を議論した。状況の整理から論点の抽出、関係者の視点の洗い出し、実行可能な打ち手の検討までを具体的に深められたことで、プログラムで得た学びを現場にどう適用するかが明確になった。特に、すぐに着手できる対応と、制度・運用として改善すべき中長期課題を切り分けて考えるアプローチが共有され、実務に直結する示唆が多かった。

また、各回で積み上げた内省や行動計画を最終回で振り返ることで、自分の課題認識が変化していることにも気づけた。リーダーシップは特別な役職の人だけのものではなく、自己管理を通じて信頼を積み、必要な場面で周囲を支援・調整できる状態を作ることから始まると実感した。今後は、優先順位付けと振り返りの時間を意図的に確保し、学んだ枠組みを継続的に運用することで、個人としての成果だけでなくチーム全体の前進に貢献したい。

(岡田龍・名古屋大学大学院医学系研究科 特任助教)